

令和3年度高知県公共事業再評価委員会
議事要旨（書面持ち回り開催）

春遠生活貯水池建設事業【事業再評価】

◆主な意見等

委員：第2ダム付替道路増額（約2億円）の理由は何か。

河川課：突発的な洪水により急激に貯水位が上昇した場合、上流の林業者が一時的に孤立する可能性があったことから、それらの対応として強い要望があったもの。

委員：便益の計算において「不特定（流水の性状な機能の維持）」による効果はどのように算定しているのか。

河川課：不特定効果は代替法により検討している。不特定容量のみを持つダムを建設した場合のダム建設費相当額を便益として算定。

委員：前回再評価の中で「事業費増額なし」と確認した後の大幅増額であり、前回の再評価は何だったのかという思い。事業費の詳細な予測は難しいのは理解するが、改善が必要ではないか。

河川課：前回事業再評価後、詳細設計に伴い詳細な地質調査等を行う中で増額が必要となった。コスト縮減にも努めたが、堤体積・掘削量の増加や止水処理で大きく増額となるもの。

委員：当事業に限らず公共事業費は押し並べて伸びることが多い。計画・設計の段階に応じて感度分析の幅を広げるなど、事業評価の各段階で不確実性をいかに表現するかが課題と考える。事後評価等を行わないのか。

河川課：今のところ実施予定はない。

委員：防御対象の一般資産と公共施設の金額はどの程度か。

河川課：1/30被害額ベースで、一般資産約14億円、公共土木施設約110億円となっている。

委員：社会インフラを守る必要性は理解するが、一般資産に対して公共施設が多すぎるのではないか。公共施設を守るための公共事業という見方もできる。近年は発生していないかもしれないが、上水道もギリギリの状態であると認識するので、そちらの必要性についてもきちんと訴えていってほしい。事業の速やかな実施を目指してもらいたい。

委員 : 第1ダムは今回大きく工期を伸ばす一方で、第2ダムはさほど延長せずにR8に同時完成見込みとなっているが問題ないか。

河川課 : 第2ダムでも第1ダム同様に、週休2日制の対応が必要だが、現在詳細設計の中で工程の精査を行っているところ。現在想定される工程でR8完了と整理している。

委員 : 事業費増額理由の「諸経費率」とは。

河川課 : 工事材料や人件費など直接工事に関する費用（直接工事費）ではなく、機材・設備の維持費や施工管理にかかる経費を、直接工事費に一定の率をかけて計上するためのもの。近年は人手不足等に伴いICT施工等施工機械での施工効率化が図られており、それらに伴う実際の経費増額が反映されたものと思われる。

委員 : 洪水被害と計画規模について、H13西南部豪雨は確率規模でどの程度か。

河川課 : 概ね1/100～200程度。

委員 : 当該事業は、地元からの期待も高く、早期に事業進捗を図ることを望む。

河川課 : 承知した。